令和 1 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画(PLAN)

事務事業名	樋門管理事業	会計名称				_	般会計		担当課	土木管理課				
争伤争未有	他门目任事未	予算科目	8	款 3	項 1	目	事業番号	3600	所属長名		武智年	F哉		
事業評価の有無	■ 評価対象事業 □	評価対象外事業	(事業の	D概要・結	果のみ)				担当責任者名		一方井	浩介		
法令根拠等								0		【開始】	令和/平成	17 年度		
総合計画での	快適空間都市の創造								実 施 期 間	【終了】	令和	年度(予定)		
位置付け	潤いのある水環境づくり									Lin≎ I J		■ 設定なし		
総合計画における本事業の役割	樋門・水門管理者と連携し施設の適正な維持管理を行うこ	ことで快適都市空	間の創造	告の一端を	≥担う。									
事業の対象	海岸に面した地域で生活を行っている住民等 事業 の目的 災害から住民の生命・)生命・財産を	守り安全な市民生	活の確立。				
事業の内容 (整備内容)	県及び市が所有する樋門の通常時の維持管理と豪雨や高剤 り浸水被害を防除する。また、地元区長と委託契約を結び 操作等を行っている。	朝に伴う非常時の? び通常時および非	操作等に 常時の相		年度の課題 する具体的 改善策									

事業活動の内容・成果 (DO)

争	業活動	刃のド	内容・	以果	(טע)																								
			事	業	費	及	び	財	源	内	訳(千 円)				事	業	活	動 σ	美	績	(活	動	指	標		
	項			目		前年度決算	算	当初予算額	į į	補正予算額	継続費その個	翌年度	繰越	決算額		項		目		単位	前	年度実	漬 1	年度	予定	9月末	の実績	1 :	年度実績
	直	接	事	業	費	8	869	1,00)1	()	0	0	8	845														
		国」	庫 支	出金	Ì		0		0	()	0	0		0	通常時の点	検回数	ζ		口		2	4		24		12		24
具		県	支	出 会	Ž	1	.90	19	00	()	0	0	1	192														
がプログ		地	方	侵	E		0		0	()	0	0		0														
言		そ	の	ft	b		0		0	()	0	0		7														
		_	般	才 源	Į.	6	79	81	.1	()	0	0	(646														
	職員の)人]	こ(にん	ノく)	数	0.	10	0. 1	.0					0.	. 10														
1	人工当	当たり	りの人	牛費单	鱼価	7, 9	82	7, 99)2					7, 9	∂92														
	※ 直	接事	業費-	-人件	費	1, 6	67	1, 80	00					1, 6	344														
	3	主な	実施主	体		伊予市					輔助金・指定管 斗等の記載欄)	施設管理区長			報		1												
						向こう5年	門の	古坟車業患	Λ+ #÷	Ŧ\$			2	年度		3 年度	Ę	4	年	度	5	年度		6	年	度	5年	間の合	計
						叫こ	干)	但按事未良 -円)	ひりが上り	19 1				1,000		1, 0	000		1	, 000		1, 00	0		1,	000			5,000
												<u>ì</u>	単位			区分年度		前	年	度	1	年度		2	年	度	目標	毎	年度
			指	標		点検回数	÷	12ヶ月					□			目標			2			2		2				2	
	成果指標	指	標設定	の考え	え方	こまめな点 を行うこと	検を がで	実施するこ きる。	とに	よって災害	系発生時、施設	の正常な	運転			実績			2			2							
		ŧ	指標で 対	長せな 果	: L \																								

改善策に	は課題や当 に対する対 度の途中に	応状況	計画的な施設の施設	の修繕を実施することによる効率的な維持管理。					
事	自		目的の妥当性	5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 4 概ね、施策の目的に沿った事業である。 2 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が		事業	豪雨時に適正な運転が行えるよう、こまめな日常点検 心掛ける。
	己	妥当性	社会情勢等への対応	5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 4 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 7 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4	14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B	A	成 果	
	判定		市の関与の妥当性	5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 4 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 2 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。	4	5∼ 7 : C 3∼ 4 : D		Т +	
務	Æ (事業の効果	5 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 4 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 2 1	4	合計点が		夫 し t-	
	担	有効性	成果向上の可能性	1 市民生活や行政内部の課題解終になっていない。 ・ 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 ・ 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。	3	14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B	A	た 点 事	点検内容及び結果について、組織全体で施設状況が把
	当		施策への貢献度	1 日間は下が延促くれい。カリ、事業無限が必要性は成功。 施策推進への貢献は多大である。 3 施策推進に向け、効果を認めることができる。 2 施策推進につながっていない。	3	5~ 7 : C 3~ 4 : D		業 の	できるように情報の共有を図る。
事	責 任		手段の最適性	- 施泉推議によっていない。 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 4 3 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	3	合計点が		苦 労 し	
	者	効率性	コスト効率	5 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 4 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 2 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。	4	14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B	A	た点・	
aue.	V		市民(受益者)負担 の適正	5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 3 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。	4	5∼ 7 : C 3∼ 4 : D		課題	
業			目的の妥当性	・ 間楽物と比較し、砂点・状質性も最初に質量化が高しいが安くのなった。 ・ 簡楽の目的を発上すために必要不可なな事業である。 ・ 概ね、施策の目的に沿った事業である。 2 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が		事	■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する
	-	妥当性	社会情勢等への対応		4	14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B	A	業	□ 事業廃止と判断する
の	次		市の関与の妥当性	- 社会開発人は1放き様子的に対してもつき、元値しか必要とのも。 市が積極的に関与・実施は妥当と判断できる。 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 1 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。	4	5~ 7 : C 3~ 4 : D		方	(判断の理由) 超過降雨による水害等から住民の生命、財産を守り 全・安心を確保する観点から、事業継続とする。
	判定		事業の効果	1 市は関子しないで、大同や市広団体等に安なるへきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解除決していて高 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	3	合計点が		向	
	~	有効性	成果向上の可能性	5 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 4 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 2	4	14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B	A	性	日頃から、適切な維持管理を行うことで、非常時に
評	所		施策への貢献度	1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 3 施策推進に向け、効果を認めることができる。 2	3	5~ 7 : C 3~ 4 : D		属長	ける機器の動作トラブルが発生しないよう試運転やメ テナンスを怠らないようにすること。 また、不具合が発生してから修繕費用を捻出するよ
				1 施策推進につながっていない。					

課

題

認

識

A

14~15 : S 14~15: S 10~13: A 8~ 9: B 5~ 7: C 3~ 4: D

3

4

7 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 5 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。

コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。

満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。

他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。

他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である

価

効率性

コスト効率

市民(受益者)負担 の適正

		一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	
施			
策	=		 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進
	_	■ 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	 に努め、今年度の事務事業評価シートに 反映させること。
を		一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	مر در ما
踏	次		
ま			
え	判	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
<i>t</i> =			
	4		
判	定	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
断		□ 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		□ 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	
行	外	答申の内容	
政 評			
価委	部		
委員会	評		
の	āT		
答 申	価		
今後の方	向性 (ACTION)		
		事業の方向性	
	の経	さらに重点化する。	
	最営	現状のまま継続する。	
	終者 判会	見直しの上、継続する。	
	断議	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
		事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	